

→沿岸へ異動できる体制作りをしていきたい。臨時採用も免許外や、県外から招いて配置している状況もあった。条件整備も求めていく。

《教育改革・教育予算増のとりくみ》

◎教育を語る会について、分会と岩教組支会が一緒に行った。PTA、地域の方も来た。

→地域の方々が集まったということは私たちもとりくみの参考にしたい。小さい地域でいろいろな声を拾っていきたい。

◎高校再編について、学級減の方針は10月にならないと出てこないが、中学生の進路決定からすると遅い。高教組が県と話をして早期に結論があきらかになれば、私たちもそれに合わせてとりくみができる。

→6月に教育委員会内部での方針が決まる。8月に教育委員会で提案という流れ。8月には公表できるように働きかけたい。

◎複数校の兼務について、片道45キロある学校を兼務している教員がいる。年間70回。職員の車がないと兼務ができない。職員の自家用車をあてにした兼務発令はあるべきではない。高教組として実態を明らかにして労働条件改善にとりくむべき。

→特別支援の進路担当で、自家用車使用が1年間で6,000kmを超える例があった。長年、公用車の配置を県に要望しているが、なかなか難しい。引き続きとりくむ。

兼務は芸術、家庭が多い。担当時間外の生徒への指導はできない。自動車での移動も大変。小規模校だけの勤務だと1校では配置にならない。

◎観点別評価について、昨年、アンケートがあったが、実態把握に努めてほしい。観点別に基づいた考査問題を作るのが大変。

→引き続き意見をもらっていきたい。

◎大学入試制度が変わる中で、生徒のことを様々な観点から評価することは大事。ただ、それをテストに盛り込み点数化することは疑問を持つ。

→昨年9月のアンケート調査では、計算式で出てくる結果が、自分が感じているものとかけ離れているとの意見もある。社会で求められている評価とイコールなのか疑問がある。

◎就学支援金制度について、通信制4年間で卒業できる生徒は少ない。就学支援金に頼らないと厳しい生徒がいる。諸納金や教科書代も厳しい。

→就学支援金は国の制度。他県では、月数を超えた場合は県で負担しているところもある。県に働きかけていきたい。

